

釣れ釣れなるままに

2003年思い出の釣行記 PART. 7

# 年間優勝 に輝く



鹿島釣狂

## 釣遊会第7回大会

☆開催日	平成15年11月16日
☆開催場所	春立港～浦河港
☆入釣場所	春立4区
☆潮	干潮 01:10 35cm 満潮 09:14 114cm
☆天候	南後西風強風 雨 雷注意報 気温早朝6度
☆釣果	アブラコ 458 mm 2 カジカ 370 mm 2 ハゴトコ 1 重量 340 0g
☆成績	合計点数 1168 点 成績 重量優勝 持ち点 1 点 累計点 21 点 (③, ①, ③, ②, 4, 7, ①) 年間点 10 点 (③, ①, ③, ②, ①)

### 年間総合優勝

## 大英断に感謝

9月9日事務局より開催場所変更の便りが届く。

「当初、第7回大会は、創立40周年に相応しく、当会で実施する磯釣り大会の新企画として【伊達～虻田港】を計画していました。初めての開催場所となるため、皆様の期待に応えることが出来る区域なのか研究する必要があり、去る7月に事務局として現地の実地踏査を行いました。地元釣り人や漁師より情報を収集し、さらに区域内及び周辺を観察し、実際に竿を投げてみて、結論として下記の理由により現時点では参加者の期待に添えることが出来ないと判断しました。(中略)

年度途中での開催場所の変更は、会長として誠に申し訳なく、研究不足の誇りは免れないことと大いに反省し、皆様に深くお詫びを申し上げます。このたびの変更は、大会に参加する皆様に楽しく釣りに没頭して、その醍醐味を味わって頂きたいという見地から見当を重ねた結果です。どうぞ、この変更に快くご理解下さいますようお願いいたします。

会長をはじめとする役員の皆様の献身的な努力と大英断には感謝したい。

大会当日の天気は、「南よりの風が強く吹き、後、西風に変わる。雷注意報が発令されており雨も強く降る。早朝には波が5mに達する」と予報している。

私は開催場所変更の便りが届いた時から、入釣場所は春立4区と決めていた。平成12

年度に初の年間優勝を決めたのは最終大会での春立だった。この時も、大荒れの中、カジカとアブラコで優勝したのだ。今回も嵐氏、堀内氏とともに年間優勝を争っている。現時点では嵐氏がトップにいるが、今日の成績如何では私にもその可能性がある。しかし、その可能性は嵐氏だからこそ極めて薄く、彼が大きくコケた時にのみ、堀内氏と共にトップの座に躍り出ることが出来るのだ。

サッカーのオウンゴールのように、他人任せではいけない。今日は自分の釣りをするだけである。最善の努力をし、あとは天命を待つとしよう。そしてその結果を素直に受け入れることだ。

## 変貌した海岸線

バスの中では、例の如く、会員の志気を鼓舞し、勝負への執念の炎を焚き付ける会長の念入りなご挨拶があった。もちろん会員相互の友好と安全を願う言葉を決して忘れてはいない。

先週の『竿道会』大会、越智氏が三石川右で大釣りした話が伝わってくる。今回も札幌の釣り会のメンバーが多数入る予定だそう。我が会でも天気がよければ狙いを定めている仲間もいるようである。次から次へと様々な情報を聞かされる。

岩本満氏（交綸会）が新聞記事の取材のために私たちのバスに乗って下さった。彼もまた様々な情報を懇切丁寧に提供してくれる。しかし、いつもならその情報の一つ一つに惑わされてしまう私も、本日はどうしたことか平常心を保つことが出来る。

春立4区で庄司氏と共にバスから降りた。いまだ0時前である。今日は長い戦いになりそうだ。4区の海岸の状況が優勝の時とは様変わりしている。砂浜と岩浜とが入り混じった海岸線一帯に真新しい防潮堤が築かれ、その切れ目ごとに立派な舟揚場がいくつも完成している。しかも、思った以上に波が高い。干潮時にもかかわらず、沖に見えるはずの岩盤が姿を隠している。これでは浅海を漕いで岩に渡ることはできない。例のプール状の掘削場所も見当たらない。彼方此方と探し回っているうちに各舟揚場に釣り人が入り始めた。

仕方がなく、およその見当をつけて釣り場を設定する。やはり、高波のため、浅海を漕いで前に行くことはできず、近場にゴロネット仕掛けをドボンと振り込む。他2本は闇雲に遠投する。しかし、どうもポイントとは違っているようだ。前方にあるはずの出っ張った岩が見当たらない。いくらこの高波でも、干潮時なので出ていないはずはないのだが・・・。

何を間違えたかハゴトコが1匹来た。しかし、それっきりアタリはない。右方向に移動する。こここそがプールだと思われるところに打ち込んだ竿によいアタリが出て、引き寄せるが途中のカケアガリで根掛かりする。それでもようやく35cm程のカジカが来た。

左方向にある春立交番前に移動する。ここは比較的波が死んでいるので最後まで頑張ることになるであろう。よいアタリはあるものの根掛かりばかりを繰り返す。ハリ先に大物の魚の気配を感じながらリールを巻くが途中で止まってしまう。抵抗感に弾力がありどう

も岩に掛かっている気がしない。意地でも魚の顔を見てやろうと、何度も同じことを繰り返しているうちに白々と明るくなってきた。なんと100mほど左方向の波打ち際に黄色いボンデンが一つ浮いている。ハタハタ網が仕掛けられていたのだ。しかし、一つしか見えないのはどうしてだろう。

## 怒濤の波間から

またまた4区に移動する。風も強く吹き曝し、さらに波が高くなってきており、ほとんど諦めの境地である。各舟揚場に入っている釣り人に様子を聞くがハゴトコのみで壊滅状態である。

たまたま空いていた舟揚場があった。時折大きなウネリが舟揚場を満杯にするほどの潮を運んでくる。舟揚場に立つのはあまりにも危険である。怒濤渦巻く高潮が沖の大岩で砕け散って白い泡となって押し寄せる。浅い岩盤状が全てサラシの状況である。西方向から



突風が吹きつけ、波飛沫が激しい雨と一緒に防潮堤の上にいる私に牙を剥いて襲いかかってくる。高い防潮堤の上からその白く渦巻く泡の中に仕掛けを放り込む。ハゴトコが来て曲がりなりにも規定の2魚種5匹が揃った。

8時頃、吉井氏より電話がある。釣果をそのまま告げたが、嵐氏がコケているということで、年間優勝は私だろうと嬉しいことを言っ

てくれる。しかも嵐氏には珍しく竿を仕舞っているとも言う。吉井氏の話だから眉に唾をつけて聞かなければならないが、私も含めてみんながコケると堀内氏という存在が強敵になる。やはり、自分の釣りをするだけである。見込みはないだろうと思いつつも、エサだけは丁寧に付け替えて何度も打ち込みを続ける。

白く泡立つ波間からゴロ仕掛けに30cm弱のカジカが来た。1本バリエで遠投していた竿にアタリが出る。グングンとしたアタリに合わせてリールを巻くと、なかなかの抵抗感である。赤黒いアブラコが白く泡立つ波間に見えた。アブラコは大波に揉まれて防潮堤の横に付いた舟揚場のスロープの上の方に打ち上げられた。そして、そのスロープをズルズルと滑り落ちていく。次の波が来る前に取り込まなければならない。隣の2本の竿を交わしながらようやく引き上げることが出来た。手にしたのは40cm強の本アブラコである。この嵐の中でよく来てくれたと頬擦りしたくなる。これで、俄然優勝の2文字が見えだした。

ふと我に返ってみると、辺りの荷物が散乱している。ベストに付けたハサミが引きちぎられて落ちている。ペンチも同様である。イカゴロが踏みつけられて中身がはみ出してい

る。ビニールバケツがひっくり返ってマキエが散らばっている。交わしたはずの竿も倒れている。来るはずはないと思っていたところにアブラコが来たので気が動転したのだろう。

締め切りまでにまだ僅かに時間を残している。もう1本のアブラコをと竿3本全てを1本バリにして今釣れた付近に遠投する。遠投といってもこちらに向かってくる強風と40号のオモリのために途中で失速してしまっているのだが・・・。

アブラコ特有の三段引きとなるはっきりとしたアタリが出た。白い渦の中に先程よりは大きい茶褐色の塊が見える。こいつは舟揚場のスロープを使わずに躊躇することなく防潮堤の上にゴボウ抜きする。

## 優勝そして年間優勝も

何度、突風で竿を倒されたことだろう。いよいよ締め切り時間が迫ってきた。腕時計に目をやると文字盤のガラスが曇っている。手を洗うために海水に浸けたり、降り注ぐ海水に曝したりしたために時計に水が入ったらしい。こうなるとボロ時計のためにいつも針の進行が遅れてしまう。時計は9時30分を示しているが、締め切り時間に間に合っているのだろうか。辺りを見回すとそれまでいたはずの釣り人がすっかりいなくなっている。大物アブラコ2体とのやりとりのため周りの変化に気が付かなかったのだ。

慌てて片づけて国道に上がる。私の時計で10時前である。先に上がった釣り人に時間を確かめると私の時計と同じ時刻を指している。安心した途端、全身から汗が噴き出した。『札幌狂釣会』の本間昭雄氏が盈進からの長い距離を移動して来て4区でやったがさっぱりだったと嘆いている。目立つ黄色いカップを着て、遠く離れた舟揚場の防潮堤の上に寝そべっていたのは彼だと思われる。カップは同じ黄色だ。人懐っこい眼差しで自分の釣行のあらましを話してくれた。

『札幌清釣会』の岡田茂三氏も、暗い内から私と同様、移動を繰り返しており、何度も話を交わしていた。私の釣果を聞いて、私が入る前に小樽の釣り人が盛んにマキエを打ち込んでいたので、その結果でしょうと教えてくれる。

バスに乗り込む。仲間は皆冴えない顔つきをしている。強風と豪雨と高波のために疲弊しきった様子だ。それでも、乗り込んだ私に仲間同士としての挨拶である釣果を聞いてくれる。大嵐のために鳧舞漁港に逃げ込んだ山岸氏と谷口氏がよい釣りをしたようだ。

## 審 査 結 果

優 勝	鹿島釣狂	1168点 (アブラコ458mm+カジカ 370mm+3400g)	春立4区
準優勝	山岸 伸	1156点	鳧舞
身長優勝	谷口良幸	42, 8cm (カジカ)	鳧舞

私が一人、ジョッキーで祝杯を上げようしていると、嵐氏が私の健闘を祝してビールを差し入れてくれる。団体戦は私たち(鹿島釣狂、山岸 伸、前野達志、島 強二)が制した。団体戦になるといつも足を引っ張っている私が、今回は貢献出来たのだ。

## 年間成績は

優勝	鹿島釣狂	10点	(③, ①, ③, ②, 4, 7, ①)
準優勝	嵐 光博	14点	(①, 15, ②, 8, ③, ①, ⑦)
第3位	堀内正博	18点	(7, ②, ①, ⑥, ⑥, ③, 12)

であった。4回大会終了時点では私が年間をいただけると思いこんでいたが、5回で不安が残り、6回になると疑問符が付いた。

5回の平均点数では1200点を超え、7回の平均でも1100点を超えた。自分としてはこれほどの頑張りはないだろう。有森裕子ではないが自分で自分をほめたい心境である。年が明けての総会では阿部会長から沢山の讃辞をいただき、晴れがましい気持ちで優勝旗を受け取った。



年間優勝を呼び込んだ獲物たち

### 【つれづれ】

第1回	島歌川	1140	③
第2回	ワスリ	1415	①
第3回	東歌別	987	③
第4回	オンコの沢	1165	②
第5回	古潭別川	1115	④
第6回	近 浦	823	⑦
第7回	春立4区	1168	①

5回計 6003 ÷ 5 = 1201

7回計 7813 ÷ 7 = 1116



### つりしん掲載

後日、1週間遅れで『週間釣り新聞ほっかいどう』の記事に岩本 満氏の取材記が掲載された。

鹿島さん **V** アブラコ、カジカ共に良型

「カジカの良型をそろえた鹿島釣狂さんが優勝した。風雨の中、波も強いというコンディション。ゴミやコンブとの戦いを余儀なくされた。鹿島さんは静内町春立4区で朝方までに37cmほどのカジカ3匹、早朝には遠投で身長賞となった45.8cmのアブラコ、さらに40cmも釣り優勝した。」

『37cmほどのカジカ3匹』は取材不足で実際はカジカ2匹にハゴトコも混じっていた。カジカの大きさも30cmそこそだったように記憶している。

12月3日 水曜日 週刊釣り新聞ほっかいどう

岩見沢釣遊会第7回大会 静内漁港〜浦河港

**仲俣さんV**  
アブラコ、カジカともに良型

11月16日、岩見沢釣遊会第7回大会が参加17人によって静内漁港から浦河港までの区間で行われ、カジカの良型をそろえた仲俣廣昭さんが優勝した。

風雨の中、波も強いというコンディション。ゴミやコンブとの戦いを余儀なくされた。仲俣さんは静内町春立4区で朝方までに37cmほどのカジカ3匹、早朝には遠投で身長賞となった45.8cmのアブラコ、さらに40cmも釣り優勝した。2位は、三石町島野に入った山岸伸さんが波の死んでいる所で、41.7cmと40cm級の3匹のカジカ、30cmのアブラコなどをそろえた。3位は、谷口良幸さん。

私は友人3人と三石町越海に入ったが、潮の込んできた午前2時以後はゴミとコンブとの戦いで釣りにならずカジカの25cmとアブラコの25cm、1匹を上げるのがやっとだった。

（南幌・岩本 週刊釣り新聞記者）

マ綜合（2種15）①仲俣廣昭11月8日山岸伸②谷口良幸③吉井博司④幸吉マ身長 仲俣廣昭アブラコ45.8cm



左から2位の山岸さん、優勝の仲俣さん、3位の谷口さん

## ウェーダー購入

大会1週間前、人間ドックの為に女房とともに札幌に行く。検査が終わった後に『アメリカ屋漁具』に立ち寄る。溪流釣りのためにウェーダーの底が剥がれていたのでも購入しようと考えていた。買えもしないウェーダーに涎を流して売り場を覗きこんでいると、女房が見かねたのであろう、カードで購入することが出来るのかと店員に確認している。もちろん可能だという。ウェーダーを購入することになる。インナーとアウトブーツと買いそろえる。しめて3万円なり。しめしめの心境なり。



